

# 市議会活動報告12

2017年11月号

南相馬市議会議員

## もんま 和夫

門馬 かずお



### 和夫のまちづくり研究室

### 第12回 市独自の戦略・事業プランを！

進む年月と、消えない不安

最大の復興事業は相馬福島道路整備

明確な復興の戦略と、働きかけを！

除染や災害公営住宅建設、ロボットテストフィールド計画など、総額6千億円を超える「国100%補助の復興予算」が投じられ、本市の復旧・復興も、ようやく形となり目に見える事業も出てきました。

しかし、医療・介護施設が再開できない、子どもたちの学力の向上や働く場の確保、旧避難指示区域の復興も進まない、地域間の市民の心の分断など、本市の課題は山積です。震災から6年が経過した現在でも、多くの方が、生活再建の見通しがつかず、将来への不安がぬぐい切れないでいます。「世界に誇れる南相馬市の復興」の掛け声にもかかわらず、この不安は何なのでしょう。

「南相馬市の復興は(充分)進んでいる」との声もありますが、視点を広くし、国が実施する福島県内の事業を調べてみましょう。この事業に当てはまるものとして、南相馬市では国際産学官共同利用施設(ロボットテストフィールド) 建設計画があります。

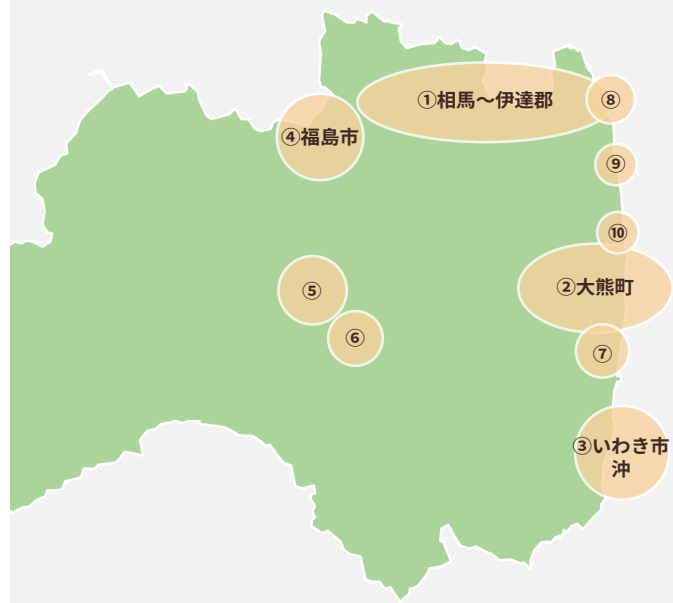
改めて比べると、南相馬市の事業規模は、決して大きく・特別な事業ではありません。「なぜ南相馬市の予算は多くならなかった」のでしょうか？ 復旧事業など「目の前の事」にばかり取り組む「今の市政」、国や県へ働きかける政治力、国へ説得力を持つ「南相馬市の将来を見据えた戦略」が足りないせいではないかと考えはじめています。

その中でもっとも大きな予算が当てられたのは、平成32年度開通の相馬福島道路(1千600億円の事業)です。これにより、相馬市は流通の拠点になり、その経済効果は莫大で、雇用、観光、若者の定住に大きく貢献することが予想されます。道路以外にも分析センターや医療科学センターなど、各地でそこで働く多くの人の姿が見える拠点整備事業が進んでいます。県内には大規模事業や多くの雇用を生む施設が目白押しです。

被災地域の実情を知る私たちが、長期的な独自の戦略を練り、国にも働きかけて解決してゆきましょう。

「国の集中復興期間」の残り3年が、正に南相馬市復興の正念場です。これらの課題は、国が被災地一律に進めている支援策だけでは解決できません。震災後歳月が経過する中で、国からの財源の確保も年々困難になっていきます。

## 福島県内の復興拠点 (概ね50億円以上の主な事業)



1	相馬福島道路整備 延長 45 kmの復興支援道路	1,600 億円
2	大熊分析・研究センター 燃料デブリの処分技術開発など	800 億円
3	浮体式洋上風力発電実証支援センター 3基合計 14メガワット	500 億円
4	ふくしま国際医療科学センター 福島県立医科大学内に整備	430 億円
5	福島再生可能エネルギー研究所 研究職員など 351人従事	191 億円
6	福島医療機器開発支援センター 医療機器の開発から事業化まで	117 億円
7	楡葉モックアップセンター 職員数 70人	100 億円
8	(仮称) 水産種苗研究・生産施設 ヒラメ・アワビ養殖など	89 億円
9	国際産学官共同利用施設 (ロボット) 研究棟、研修棟など	61 億円
10	アーカイブ拠点施設 展示プレゼンテーションなど	55 億円

## 9月議会の一般質問から

### 1. 市独自の教育振興対策を展開すべき

**問** 全国学力学習状況調査で全国トップレベルとする目標などを掲げてきたが、その達成状況などについて伺う。

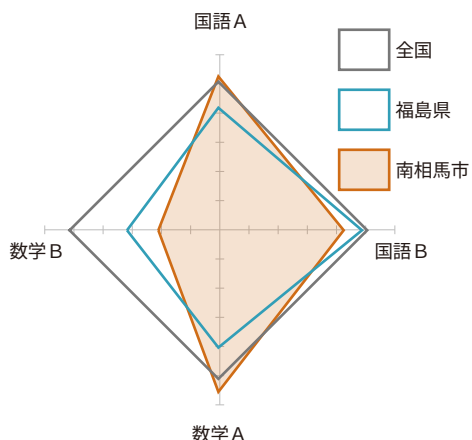
**答** 小学校・中学校の国語、算数・数学の知識を問うA問題、応用力を問うB問題とも全国平均とほぼ同程度。中学校の国語、数学の活用力が課題である。

今後は、中学校の授業力向上や活用向上授業研究会などで教員の授業力を高める。

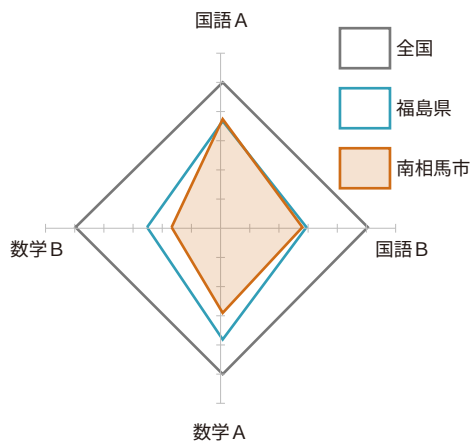
### 質問の趣旨

本市学力は、小学校が全国平均と同程度、中学校は平均を下回っており、「全国トップレベル」の目標からは程遠い状況です。現在の市の施策は、県内で進められていると同様の取り組みだけで、市独自の効果的な事業が見えません。

## 小学校 学力テスト結果



## 中学校 学力テスト結果





# 写真で見る主な活動（29年8月～29年10月）



市長の「引き続き復興に力を尽くしたい」との新聞記事を見て、復興に向けた「市長としての考え」「新たな取り組み」などを期待して9月の一般質問に臨みました。

しかし、市長からは具体的な答弁も新規政策の答弁もありませんでした。

「市議会には答えない」というのが市長の姿勢なのでしょう。結局、こちらからの一方的な提案で終始しました。市民が知りたいのは「将来の復興の形・そのため何をやる？」です。大切な、今後の復興の姿が見えず、とても残念でした。

**私は提案します**

①地域のコミュニティ、幼保・小中学校の在り方、医療環境、日常生活の姿などで小高区が目指す将来の姿を早急に整理・共有すること。

②小高商業高校や浮舟会館など現在の施設・資源の複合活用を考えること。

## 私は提案します

「市独自教師の確保」や「中学生のホームステイ付外国修学旅行」など、他で行っていない「子供たちが誇りをもてる・自慢できる」事業展開をすべきです。

28年度末で、百億円超の「未活用基金」を使えば、教育振興の財源も確保できます。

## 2. 多様な産業振興・雇用確保策を！

**問** 製造業品出荷額の増加や震災以降の立地企業数、起業件数など、目標を掲げてきたが、産業振興策の成果は？

**答** いずれも目標達成、もしくは目標を達成するペースで順調に推移している。南相馬ロボット振興ビジョンの施策を展開するとともに、プレミアム付商品券事業や集客力を高めるイベント事業などを継続して、市内経済、産業の活性化を図る。

## 質問の趣旨

現在の市の産業政策は「ロボットテストフィールド」がメインです。県内の多くの自治体でも工業団地造成やインベシヨコースト構想に取り組んでおり、今では独自性や強みはありません。



かしま港まつり  
平成29年9月16日

ほっきカレーの振る舞いに、ご覧の長蛇の列です。私も何とか間に合いました。格安の剥きホッキ、タコなど「買占め」ました。



第4回高平地区高齢者の集い  
平成29年9月7日

高平地区福祉委員会の皆さんのおかげで、今年もこんなに盛大に高齢者の集いが開催されました。高平幼稚園生のダンスや交流で、みんな大喜びです。

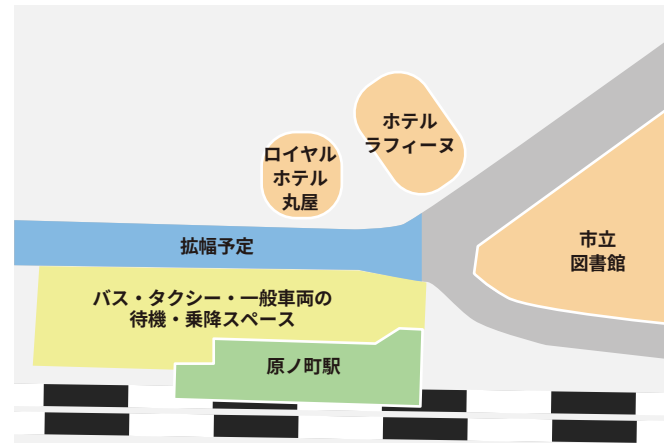
## 私は提案します

①少人数の創業を大切にする  
農業も含めた若者の創業支援、創業者の情報交換の場を確保する。

②企業誘致の地道な活動を強化する  
年に数回だけのトップセールスをもっと増やす、職員的首都圏派遣を検討すべき。

③街なか再生策を再開する  
原ノ町駅前道路拡幅や駅広場の計画が進んでいます。道路や拠点施設、デマンドタクシーも含んだ中心市街地活性化対策再開の時期です。

## 原ノ町駅前道路拡幅・駅広場開発計画



## 3. 小高区の復興戦略を急げ！

**問** これまでは（商業施設整備や小高診療所、薬局再開など）個々の対応だけで総合的な復興戦略が無かった。旧避難指示区域の復興戦略について伺う。

**答** 復興総合計画では、小高区を中心とした旧避難指示区域の再生など市民生活の基礎となる復興事業を優先的に実施することとしている。

小高区の再生を更に進めるため、小高復興アクションプランを策定している。プランでは、帰還して住み続けたいと思える町の実現に向け、地域の絆再生、若者が定住し、活躍できる取り組みの構築などを行う。

## 質問の趣旨

避難指示12市町村の多くでは、「避難指示解除の前」に「解除地域独自の網羅的な復興計画」を策定していました。

一方本市は、行動計画（アクションプラン）もないまま「解除」を優先しました。その結果、帰還住民から、市では想定していなかった薬局再開やスーパー建設などの要望が出されるなど、後手の対策（対症療法）に追われています。



番外編

市政に無関係ですみません。孫の幼稚園「初運動会」です。しっかりカメラ目線で、ダンスやかかけっこに頑張りました。



相馬看護学校戴帽式  
平成29年10月6日

はじめて戴帽式に出席しました。正に、相馬地方の医療を支える人材が誕生した式典です。厳かで、感動しました。



相馬地方市町村会（会長 立谷相馬市長）への要望書提出  
平成29年10月3日

市議会の有志（友和会、公明党南相馬市議団、尚友会）で、「福島県の南相馬市児童相談室（実質2名）を相談所へ格上げし、相談体制を充実する要望書」を提出しました。